

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

1 大阪府の感染状況

(1) 感染状況

- **直近 1 週間は前週より減少に転じたが、依然、1 万人を上回る大規模な感染拡大が継続。**
陽性率は依然、4 割を超過し、高止まり。無料検査の陽性率も約14%と極めて高く、市中で感染がまん延した状態が継続。
- **年代別新規陽性者数移動平均は直近で減少に転じているが、直近 2 週間では、60代以上の割合が増加しており、高齢者に感染が拡大。**
- **大阪市外居住地の陽性者数はやや減少が見られたが、直近で横ばい。大阪市内居住地の陽性者数は直近で減少。**
(年代別の分析は次ページ)

2 入院・療養状況等

- コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を含めた病床使用率は40.1%（病床確保計画に基づく確保病床以外に受け入れていただいている病床数 4 床を分母に含む。以下同じ）。
重症病床運用率は54.6%であるが、クラスターにより患者受入が困難な医療機関等もあり、運用体制としてはひっ迫。
不急の予定入院・手術の延期により一般医療を一部制限しており、**医療全体に影響が生じている。**特に、救急搬送困難事案件数は高水準で発生しており、**救急医療に負荷が生じている。**
- 病床確保計画に基づく運用病床以外に受け入れていただいている病床数（2/15時点281床）を含めても、**軽症中等症病床の運用はほぼ満床の状態。**
- 宿泊療養施設居室使用率、運用率ともに24.0%。自宅待機者は、約134,000人。
- 現在、大規模な感染拡大の継続を踏まえ、重症化リスクの高い方などに優先的に入院いただいている（入院率は2%台と過去最低の状態）。
軽症中等症病床における入院患者の平均入院日数は約 8 日と、過去の波より短い（今後、国の方針を踏まえ、入院日数がさらに短縮の可能性）が、**高齢者の入院患者の増加により重症者数の増加や入院日数が長期化する可能性があり、さらなる医療ひっ迫が懸念。**

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

3 大阪府の医療提供体制がひっ迫している要因

- 大規模な感染拡大が継続している東京都と比較し、大阪府では医療提供体制が極めてひっ迫。
- 要因として以下が考えられる。

① 高齢者への感染が拡大

- ・70代以上の新規陽性者数は1週間で9,500人を超過し、陽性者数に占める割合も1割を超過。
- ・高齢者への感染拡大については、クラスターの発生が大きく影響。

大阪府：1月の高齢者施設クラスター…42件・陽性者数758人。医療機関…19件・陽性者数369人。
2月（12日間）の高齢者施設クラスター…62件・陽性者数1,016人。医療機関…27件・陽性者数764人。

② 上記①に伴い、高齢者の入院患者が急増。

- ・大阪府では、入院調整時の入院患者の年代割合は、70代以上が7割以上を占め、症状としても、中等症Ⅱ以上が7割以上。軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合も70代以上が約8割と、東京都の約5割強より極めて高い。
- ・重症者に占める70代以上の割合が6割を超過しており、第四波の4割強や第五波の2割弱に比べ、高い。高齢者は基礎疾患等をお持ちの方も多く、入院が長期化する傾向があり、病床がひっ迫している要因の一つ。
- ・死亡例においても、70代以上の割合が約9割と、第四波の約8割強、第五波の7割弱に比べ、高い。死亡例について、推定される感染経路は施設・医療機関関連が約3割（第四波と同程度）。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 年代別新規陽性者数や7日間新規陽性者数の推移から、**新規陽性者数は減少に転じ始めている**。
しかし、依然、**1日あたり12,000人程度の陽性者が確認**されており、極めて高水準。陽性率の高さからも、市中で感染がまん延した状態。感染動向について、慎重に見極めが必要。
- **医療提供体制については極めてひっ迫**。不急の予定入院・手術の延期により**一般医療を一部制限しており、医療全体に影響**が生じている。救急搬送困難事案件数は増加し続けており、**救急医療に対して大きな負荷**がかかっている。
- 大阪府においては、高齢者への感染拡大が顕著にみられ、今後、**高齢者の入院患者の増加により、重症者数の増加や入院日数の長期化、入院患者において介護等も必要になるケースでの医療機関の負担の増大などにより、さらなる医療ひっ迫が懸念**。
特に、**重症患者数は新規陽性者数よりも遅れて増加するため、その影響が長引くことに警戒が必要**。
(沖縄県では、新規感染者数の減少後、入院患者・施設療養者が減少に転じるまで2週間程度のタイムラグ。介護福祉施設の感染者も同様の傾向)
- デンマークのように、オミクロン株の変異株であるBA.2系統への置き換わりが進み、更なる感染拡大となる可能性にも注意が必要。

⇒以上のことから、大阪府においては、当面、大規模な感染が当面継続し、仮にピークアウトが近づいていても、重症者数等は遅れて出ることから、**医療提供体制が極めてひっ迫した状態がしばらく継続する見込み**。

これ以上の医療提供体制のひっ迫を防ぎ、早期に改善させていくため、**感染規模の抑制に向けた人流抑制等の強い措置の検討が必要**。
特に、**70代以上の高齢者や重症化リスクの高い方の不要不急の外出自粛や、高齢者等と日常的に接する家族、高齢者施設・医療機関等の職員の感染リスクを減らす行動の徹底が必要**。さらに、**ワクチン追加接種の推進、高齢者施設等における感染対策の徹底を図る必要**。

⇒また、**高齢者施設等において陽性者が発生した場合の、医療機関による感染制御等に対する助言や、施設への往診可能な医療機関による抗体治療・経口治療薬の投与など、保健所や府・市町村、地域のネットワークによる支援の強化を図っていく**。

⇒さらに、**病床を効率的に活用するため、休床病床の活用や、症状悪化がみられない患者の臨時医療施設、宿泊療養施設、高齢者施設等への早期の転退院の強化などを進めるとともに、他疾患救急患者・院内感染患者など他疾患の治療を行う場合は受入病床以外の病床を活用するなど、医療機関全体での対応を進める**。